

平成30年度 公民科「倫理」SYLLABUS

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 第3学年 特別進学クラス国立文系コース
教科書	改訂版 現代の倫理 (山川出版社)	副教材等	

1. 学習の到達目標

- ①青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深める
- ②人格の形成に努める実践的意欲を高め、生きる主体としての自己の確立を促す
- ③良識ある公民としての必要な能力と態度を育てる

2. 学習の計画

学期	月	単元名	学習事項	学習内容や活用	評価の材料等
前 期	4	第Ⅰ部 青年期 と自己の課題	第1章 青年期と自己の探究 第2章 自己と他者 第3章 生命と自然との出会い	<ul style="list-style-type: none"> ・人生の発達段階において、自己を確立する基礎を培うという青年期の意義と、その発達課題について考える。 ・青年期の心身の特徴を把握し、青年期に共通する悩みに気づき、悩むことが自己形成につながることを理解する。 ・学ぶことや働くことがもつ多様な意義について考え、価値ある人生を追求し、将来の進路を適切に選択することが、青年期の発達課題の一つであることを理解する。 ・青年期における対人関係の悩みを見つめ、他者と共に生きる道について考え、他者や社会とのかかわりをいかに深めるかについて理解する。 ・生命そのものの意義や意味と命を育む自然への畏敬と感謝が倫理を学ぶ基礎になることを理解する。 ・生きがいとは何かを考え、「自己の人生をどう生きればよいか」「生きる意味は何か」という倫理的な課題を自覚し、以後の先哲の思想の学習の動機づけとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・グループ学習 ・模造紙発表 ・ノート提出 ・定期考査
	5	第Ⅱ部 人間と してのあり方・ 生き方	第1章 人間としての自覚	<ul style="list-style-type: none"> ・哲学が人生や世界の全体的な意味や目的について探究する学問であることを理解し、先哲の思想を手掛かりとして人間としての自覚を深め、生きる意味について主体的に考えて、自らが「哲学する」ことに関心をもつ。 ・儒教などの古代中国の先哲の思想を手掛かりに、人間についての見方を深め、どのように望ましい人間関係を築きながら社会生活を送るべきかという課題について考える。 ・老荘思想を手掛かりに、東洋的な自然観や自然と共生する人間の生き方について理解する。 ・万物に命を与える生命の根源へと目を向けながら、命の尊さと重さを教える宗教の意義を理解し、それを一人ひとりの生きる課題と重ね合わせて考え、人生についての思索を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・グループ学習 ・模造紙発表 ・ノート提出 ・定期考査
	6		<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教における神の愛や隣人愛、原罪の思想を手掛かりに、キリスト教の人間観を理解し、他者と共に生きる自己の在り方についての思索を深める。 ・世界三大宗教の一つであるイスラーム教の成立の歴史や、基本的な教義について学び、政治と宗教が一体となったイスラームの社会と文化への理解を深める。 ・仏教が人生の不安や苦悩と向き合い、生命あるものすべてに対する慈悲を説くことを手掛かりに、生命の深遠さや無常の世における人間の生き方について思索を深める。 ・美や芸術が人間の心にもたらす豊かさと潤いの大切さ、人生の真実を伝える芸術の意義について考える。 		
	7		第2章 世界の中の日本人	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人の心情やものの見方・考え方や風土や、稲作を中心とする村落共同体との深いかかわりを学び、それらが日本の思想を育み、外来思想を受容しつつ、日本の伝統思想を形成する基礎になっていることを理解する。 ・聖徳太子や奈良・平安から鎌倉時代に仏教を広めた先哲が、どのように仏教を受容し、独自の思想を展開したかについて理解し、それを日本人としての自己認識の一つの視点として活かす。 ・江戸時代の儒学諸派を起こした先哲が、儒教をどのように受け止め、人間としての在り方生き方に役立つ教えとしたかを理解し、それを日本人としての自己認識の一つの視点として活かす。 	

学期	月	単元名	学習事項	学習内容や活用	評価の材料等	
前期	9			<ul style="list-style-type: none"> ・西洋文化摂取後の近代日本において、外来思想に基づいて新しい文化や思想を形成した先哲の思想や、彼らの外来思想を受容する際の課題意識を手掛かりに、それらが現代の私たちにどのような影響を与えているか、国際社会において日本人はいかに在るべきかについて考える。 ・国際社会において日本人としての自覚をもちつつ、他の国の人びとや文化を尊重しながら、主体的に生きる人間の在り方生き方について考える。 		
後期	10	第Ⅲ部 現代社会と倫理	第1章 現代社会を生きる倫理	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の尊厳、人格の自由や自律について思索した西洋近代の先哲の思想を学ぶことを通して、人間の尊厳の根拠について問い、個々の人間がすべて等しく人間としての尊厳をもつことを理解し、それを尊重しようとする態度をもつ。 ・科学的なものの見方・考え方についての先哲の思想を手掛かりにしながら、現代の科学技術の根底にある基本的な見方や考え方を理解し、人間と自然とのかかわり、科学技術をどのように利用すべきかについて考える。 ・民主社会の形成の基礎となった先哲の思想を学び、人権の由来、自由と責任、権利と義務など、民主社会の倫理的な見方や考え方を、個人と ・個人と社会全体の幸福のかかわりについて考え、社会で人びとと共に幸福をめざすことの大切さについて理解する。 ・現代に多く見られる他人指向型の生き方を克服し、真実の自己の生き方を選びとる主体性を養い、自己実現をめざす主体的な態度を身に付ける。 ・人間はつねに他者とのかかわりの中に生きていることを自覚し、ヒューマニズムやボランティアの精神を学びながら他者と共に生きることによって生命の尊重と幸福を実現する道について考える。 ・近代の理性万能主義がもたらした矛盾や問題を批判し、人間性を尊重する民主的で平和な社会、自然と共生する社会をめざす新しい知性について考える。 ・異なった民族への差別や迫害の歴史と向き合い、非人間的な行為の原因や、そこから人間の尊厳を回復する道について考える。 ・変貌する現代社会や現代人をとらえようとする新しい思想の試みを理解し、それにインスパイアされながら、自らが現代の社会と人間像について考察する手掛かりとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・グループ学習 ・模造紙発表 ・ノート提出 ・定期考査 	
	11					<ul style="list-style-type: none"> ・生命科学や技術の進展がもたらす新たな問題について知り、人間がどこまで生命に手を入れることが許されるのか、生命の価値や人間としての尊厳のある生と死の在り方とは何かについて、自ら学び、自ら考え、判断する力を身に付ける。 ・地球規模の環境問題を、私たちの身近な生活とのかかわりの中で調べ、その解決の道を探り、自然との共生に基づく生活スタイルや、環境や資源を未来の世代に伝える責任があることについて自ら学び、自ら考え、判断する力を身に付ける。
	12			第2章 現代の課題と倫理		

3. 評価の観点

関心・意欲・態度	倫理と人間生活にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究し、倫理的な事象を総合的に考えよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付ける。
思考・判断・表現	事象の本質や人間としての在り方について広い視野に立って考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断し、その過程や結果を適切に表現する。
資料活用の技能	倫理における基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用して学び方を身に付ける。
知識・理解	倫理における基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。

4. 評価法

日々の授業態度や授業に対する発問評価で関心・意欲・態度を評価を行う。提出課題やノート提出で思考・判断・表現の評価を行う。グループ学習や模造紙発表で資料活用の技能を評価する。小テストや定期考査で知識・理解を評価する。

5. 担当者からのメッセージ

インターネットや新聞・ニュースなどのマス・メディアなどを活用して、わかりやすい事例を提示できるように心がけたい。